2024年度入試

入学試験問題集

【子ども学部　子ども学科】

東京成徳大学

TOKYO SEITOKU UNIVERSITY

目　次

総合型選抜　９月入試　小論文 …… 1

総合型選抜　10 月入試　小論文 …… 2

総合型選抜　12 月入試　小論文 …… 3

学校推薦型選抜（公募入試／指定校入試）　小論文 …… 4

編入学試験　小論文…… 6

出題意図…… 7

「一般選抜 A 日程・B 日程・C 日程」の問題は、
「2024 年度入試問題集　一般選抜 A 日程入試・
B 日程入試・C 日程入試」に掲載しています。

●総合型選抜　９月入試

【小論文】（試験時間：60 分）

以下の文章を読み、設問に答えなさい。（各 300 文字以内・横書き）

設問１．自身の受けた「メディア・リテラシー教育」の中で、最も印象に残っている事柄とそこから学んだことを述べなさい。

設問２．下線部の「自らのメディア・リテラシーを問われる時代」とは、具体的にどのようなことが問われているでしょうか。これからの時代を生きる子どもたちに求められる能力の観点から述べなさい。

昨今、メディア・リテラシーという言葉が時代のキーワードとしてクローズアップされています。2020 年から順次実施されていく学校教育の新学習指導要領でもその重要項目として「メディア・リテラシー教育」が挙げられています。

「リテラシー」とは本来「読み書きする能力、識字能力」の意味。そこから派生した「メディア・リテラシー」とは、テレビ、新聞、インターネットといったあらゆるメディアの情報をしっかりと読み解き、真偽を見極める能力、つまりメディアの情報読解力のことを指します。

とくにインターネットの普及を境にメディアの多様化が進み、私たちは常にあらゆるメディアに接して、そこから発せられる膨大な情報に取り囲まれながら生活しています。

ただ、世の中にあふれる情報は、そのすべてが正しいとは限りません。そこにはまったくのウソやデタラメ、根拠のない情報、誇張や偏りのある情報など、不確かで怪しい情報も数多く混在しています。

そうした時代を生き抜くために、これまで以上に正しい情報を識別し、適切に判断する能力＝メディア・リテラシーの必要性、重要性が高まっているのです。

現代社会におけるメディア・リテラシーを語る上で、とりわけ重要なのが「インターネット上の情報」との向き合い方でしょう。

必要な情報がいとも簡単に手に入るという意味で、インターネットがこの上なく便利なメディアであることには異論はありません。ただ、常に意識しておかなければいけないのは、インターネットから得られる情報は「玉石混淆（ぎょくせきこんこう）」だということです。

専門家や学者先生が発信している正確で有益な情報から、その辺の誰かが適当に書き込んだ根拠のない情報、さらには意図的に捏造された情報まで、十把一絡（じっぱひとから）げでごちゃ混ぜに存在しているのがインターネットの世界です。そこでは「玉（ぎょく）」よりも、むしろ「石（せき）＝間違った情報」のほうが多いかもしれません。

また、そうした「石」の情報ほど独り歩きしやすい傾向があります。ネットの世界では何の根拠も確証もない誤った情報（デマ）が瞬く間に不特定多数に拡散し、収拾がつかなくなるといった状況が珍しくありません。グリム童話『ハーメルンの笛吹き男』のように、吹き鳴らされた笛（＝流された情報）につられて、判断力のない子どもたち（＝鵜呑みにしてしまう人たち）が群れになってついていってしまう――そんな現象が起こり得るのです。

2016 年の熊本地震の発生直後、ツイッターに「動物園からライオンが放たれた」という一文がライオンの画像とともに投稿されました。この投稿はたちまち多くのリツイートによって拡散し、動物園や警察に問い合わせが殺到。ところがこの投稿はまったくのデマで、ライオンの画像も無関係な写真だったのです。最終的に投稿者は逮捕されたのですが、実に多くの人がウソのネット情報に翻弄されてしまったわけです。

膨大かつ玉石混淆で、正しい情報も愉快犯的な悪意あるウソ情報も、何もかもが同じ土俵に上げられてしまう。――インターネット情報の特徴は、そうした圧倒的な網羅性と並列性にあります。そして、私たちは自分自身で、情報の真偽や正誤を判断して取捨選択しなければなりません。

手軽に、簡単に情報が入手できる時代だからこそ、それが「玉（ぎょく）」なのか「石（せき）」なのかをしっかり見極めるために、冷静になって能動的に真偽を判断・読解するスキルが求められるのです。

さらにＳＮＳやブログの普及によって、今や誰もが自由に情報を発信できる“一億総発信時代”になっています。そんな時代ゆえ、情報の真偽を判断できないというリスクは、間違った情報を誰かに発信（シェア）するリスクにも直結してしまいます。「ライオンが逃げた」のようなデマの拡散はその顕著な例と言えるでしょう。

情報を受け取るときも、情報を発信するときも――私たち現代人は常に、自らのメディア・リテラシーを問われる時代に生きているのです。

出典：齋藤孝、『大人の読解力を鍛える』、幻冬舎、2019 年、ISBN978-4-344-98571-1、P82-85

●総合型選抜　10 月入試

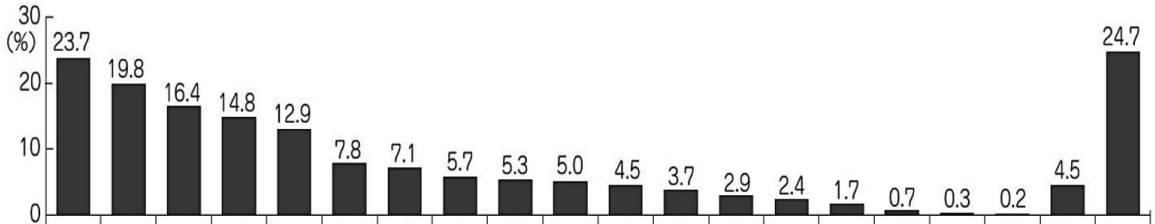
【小論文】（試験時間：60 分）

下の図は、小学生が日常生活でよくするスポーツや遊びについて調査した結果を示している。以下のそれぞれの設問を読み、解答しなさい。

設問１．図から読み取ることができる顕著な特徴を１つ挙げてそれについて説明し、そのような結果になった理由として考えられることを述べなさい。（300 字以内）

設問２．小学生が体を動かすことについて、図に示されているスポーツや遊びを例に挙げて、あなたの考えを述べなさい。（300 字以内）

図　小学生のよくするスポーツや遊び　（令和元年）



(%)	かけっこ	水泳	なわとび	ドッジボール	フットサル サッカー・	テニス・バドミントン	ダンス	キャッチボール	鉄棒	ソフトボール 硬式野球・軟式野球・	バスケットボール	体操	卓球	空手	ベースボール	バレーボール	ホッケー	ポートボール	その他	スポーツはしない
男子(600人)	24.2	20.7	7.7	19.3	23.3	5.2	1.3	10.0	4.0	8.8	4.5	2.5	2.5	4.2	3.2	0.3	0.3	0.3	4.5	21.2
女子(600人)	23.2	19.0	25.2	10.3	2.5	10.3	12.8	1.3	6.5	1.2	4.5	4.8	3.3	0.7	0.2	1.0	0.2	−	4.5	28.2
小学1年生(200人)	35.0	22.5	19.0	11.0	15.0	2.0	7.5	6.0	9.0	2.0	1.0	7.5	1.5	2.0	1.0	−	−	−	2.0	21.5
小学2年生(200人)	34.5	23.5	25.0	16.5	12.0	6.5	10.0	3.5	7.5	2.5	3.0	5.0	1.0	3.5	2.0	1.0	0.5	−	6.0	18.5
小学3年生(200人)	28.0	21.0	21.5	16.5	12.5	6.5	7.0	6.5	2.0	4.5	4.5	2.5	2.0	1.5	−	−	0.5	−	7.5	24.5
小学4年生(200人)	18.5	22.5	13.0	16.0	14.0	12.5	6.5	8.0	5.0	8.5	5.0	4.5	4.5	2.0	2.0	1.0	−	−	3.5	20.5
小学5年生(200人)	13.5	17.5	10.5	17.0	14.0	10.0	7.0	4.5	5.5	7.0	6.5	1.5	3.0	3.0	2.0	1.5	0.5	0.5	5.0	27.5
小学6年生(200人)	12.5	12.0	9.5	12.0	10.0	9.0	4.5	5.5	2.5	5.5	7.0	1.0	5.5	2.5	3.0	0.5	−	0.5	3.0	35.5

資料出所：学研教育総合研究所『小学生白書 WEB 版』（2019 年 8 月調査）

出典：愛育研究所（2021）『日本子ども資料年鑑 2021』　※ 作問者により一部改編

●総合型選抜　12 月入試

【小論文】（試験時間：60 分）

食育に関して書かれた以下の文章を読み，【設問１】及び【設問２】に答えなさい。

【設問１】
　子どもの食育を推進し，良好な食生活を実現することが，子どもにとってどのような影響を与えるかについて本文を用いて述べなさい（200 字以内）。

【設問２】
　子どもの生活の質を向上させる食育の必要性や具体策についてのあなたの考えを自由に述べなさい（600 字以内）。

　児童の食生活と生活との関連性については，食べることに興味を持つ児童は，そうでない児童に比較して，高い割合で食べることへの意欲，毎日の生活が楽しいと感じている傾向にあると共に，イライラやストレスを感じない傾向にあった。さらに，料理の手伝いや家事の手伝い，家族との会話といった家族とのコミュニケーションは，食べることそれ自体への興味や毎日の楽しさにも大きく関係していることが明らかとなった。加えて，食べることに興味を持つことと，毎日の楽しさは大きく関係するだけでなく，イライラやストレスを感じない傾向にあることも明らかとなった。さらに，料理の嗜好調査の結果と食事の手伝いや毎日の楽しさといった項目との関連をみた結果，食事の手伝いに関わる事が好き嫌いを少なくする傾向にあること，さらに，好き嫌いの少ない児童は毎日が楽しいと感じている傾向にあることが明らかとなった。
　以上の結果から，家庭生活の中でも家事，手伝いや家族との会話を通して，家族とのコミュニケーションがしっかり取れている児童は，食生活が充実しているとともに，精神的な状況，毎日の充実にも繋がっているといえる。従って，児童の食生活や日常生活を充実させるためには，家庭において様々な形（家事手伝い・会話等を通して）でコミュニケーションをとることが重要である。これらの結果から，第一に，食生活が充実している児童は，毎日の生活そのものも充実している，第二に，家庭でのコミュニケーションと食生活の充実は関連があることが示されたと考えられる。つまり，食生活が充実している児童は，毎日の生活そのものも充実している傾向にあり，食生活を充実したものにするためには家庭でのコミュニケーションが重要な役割を果たすことが示唆されたといえる。言い換えれば，子どもへの食育を推進し，良好な食生活が実現できれば，子どもの生活の質が向上する傾向が示唆されたといえる。

引用文献：上岡美保・伊藤希 (2015)．都市部における学童期児童の食生活と家庭でのコミュニケーションに関する考察－東京都世田谷区の学童期児童を事例に－．農村研究，第 121 号

●学校推薦型選抜（公募入試／指定校入試）

【小論文】（試験時間：60 分）

以下の資料を読んで、後の問題に解答しなさい。

資料の調査は、民間のリサーチ機関が「日本の子ども・子育てにおける現状と課題」を把握することを目的として 2014 年に行ったものである。

図 1　地域の中での子どもを通した付き合い（2014 年）

（回答総数：父親母親とも 2000 人）

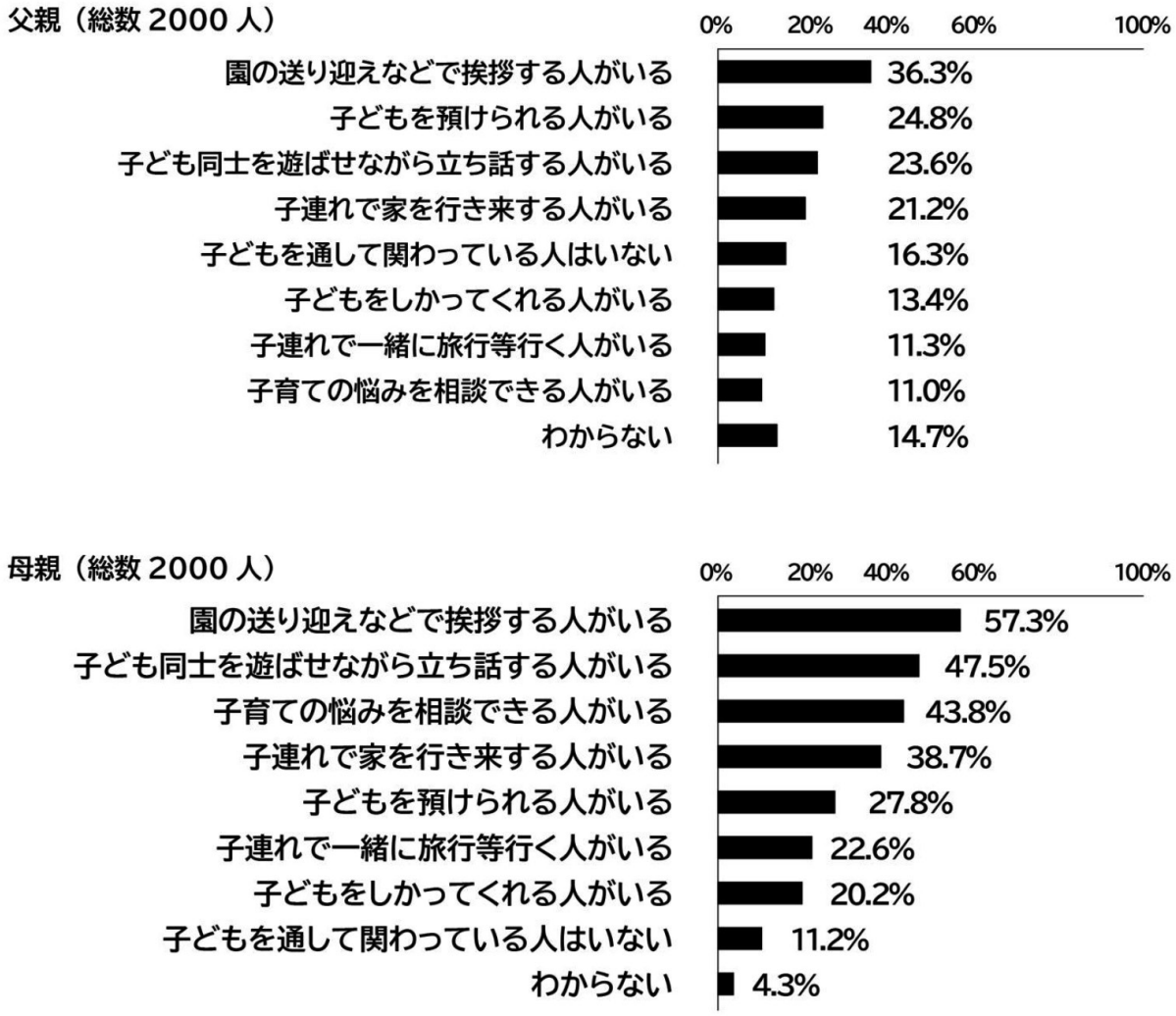
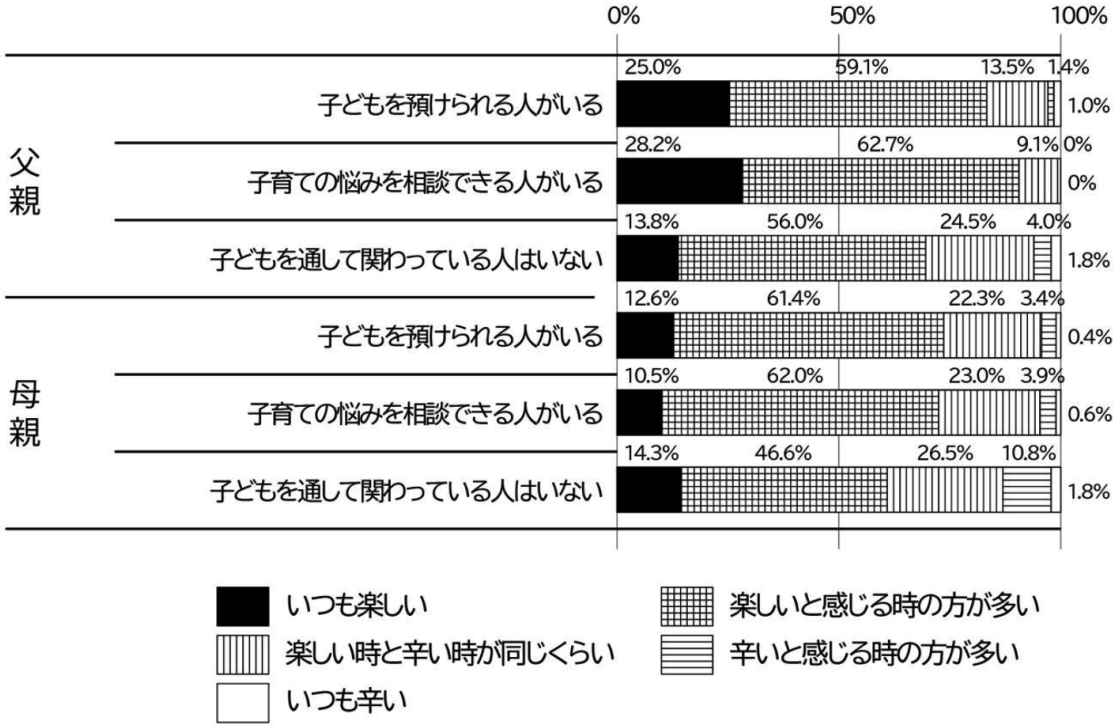


図２ 地域の中での子育てを通した付き合いと子育ての楽しさ（2014 年）



注：図１の「地域の中での子どもを通した付き合い」（複数回答）の選択肢「子どもを預けられる人がいる」、「子育ての悩みを相談できる人がいる」、「子どもを通して関わっている人はいない」の３つについて、それぞれ「はい」と答えた人を母数として集計している。

調査結果に基づく提言

地域の中での子育てを通した付き合いの度合いごとに子育ての楽しさの感じ方を比較すると「子どもを通して関わっている人はいない」と答えた人は父親、母親共に子育てが「いつも楽しい」「楽しいと感じる時の方が多い」と回答する割合が低い。

地域の中で、子どもを通した付き合いが減っている中で、地域の中で孤立せずに、必要な支援や良好な子育て環境にアクセスできるよう地域の人的なつながりの輪の中に、子育て家庭を包み込むような支援が求められる。

三菱 UFJ リサーチ＆コンサルティング株式会社「子育て支援策等に関する意識調査結果 2014」を一部改変
https://www.murc.jp/wp-content/uploads/2014/12/press_141208.pdf　閲覧日：2023 年 10 月 25 日

【問題１】2014 年の調査で「子どもを通して関わっている人はいない」と回答した人の全体回答者数を、図１に基づいて計算しなさい。計算過程を記すこと。単位は「人」を用いること。

【問題２】図２から読みとれることを書きなさい。その上で、保育者や保育施設にとって、どのような子育て支援が今後の課題になると考えるか。図１と図２の調査結果に裏付けられた、効果的で、かつ具体的・現実的な説明を、600 字以内で論述しなさい。

●編入学試験

【小論文】（試験時間：60 分）

図１は自然体験と自己肯定感、道徳観、正義感との関係、図２は自然体験・生活体験と自立的行動習慣との関係について調査した結果を示したものです。まず、この２つの図から読み取れることを説明してください。次に、学校教育における体験活動の意義についてあなたがどのように認識しているかを述べてください。そして、上述してきたことを踏まえて、保育・教育の現場において、どのような体験活動が必要であるかについてあなたの考えを論じてください。以上のことを 800 字以内でまとめてください。

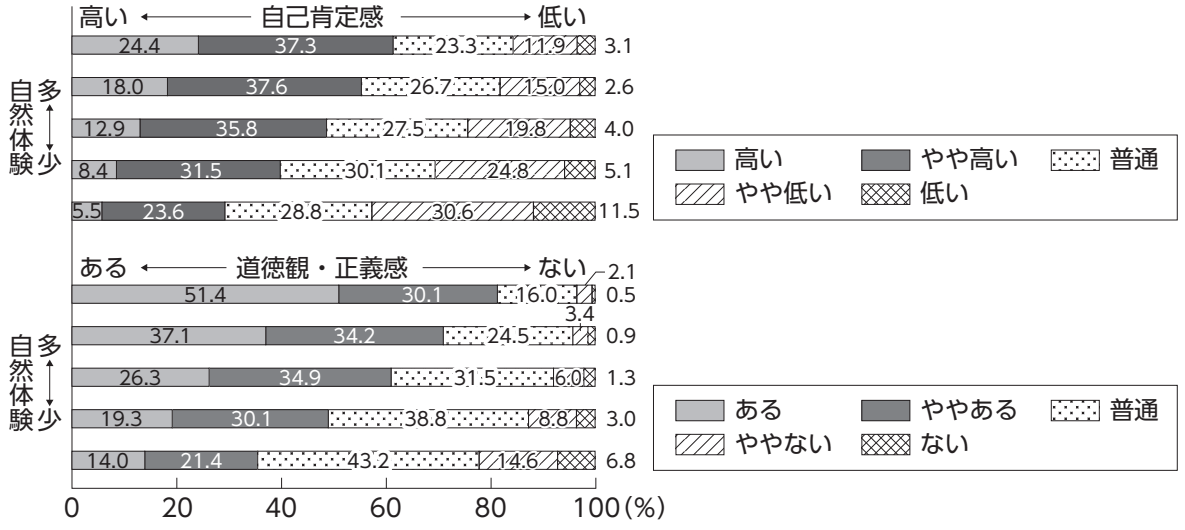


図１　自然体験と自己肯定感、道徳観・正義感との関係

独立行政法人国立青少年教育振興機構「青少年の体験活動等に関する意識調査（平成 28 年度調査）」

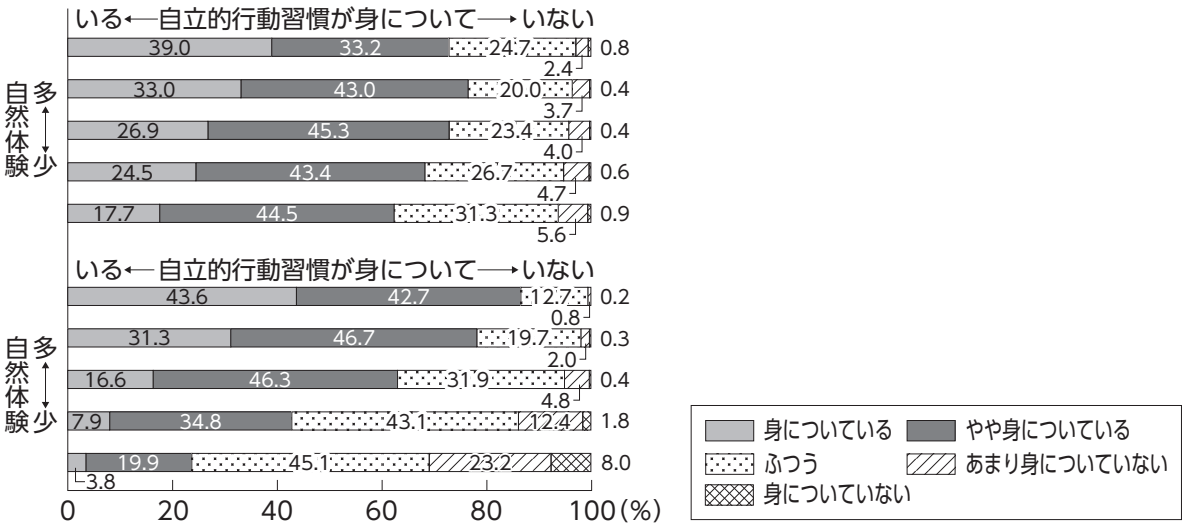


図２　自然体験・生活体験と自立的行動習慣との関係

独立行政法人国立青少年教育振興機構「青少年の体験活動等に関する意識調査（平成 28 年度調査）」

図１・図２　出典：内閣府 HP　令和３年版 子供・若者白書（全体版）第１節自己形成のための支援　第２章全ての子供・若者の健やかな育成　第１節 自己形成のための支援　https://www8.cao.go.jp/youth/whitepaper/r03honpen/s2_1.html

●出題意図

総合型選抜　９月入試【出題意図】

本出題では，設問に対し，下記の点について自分の経験や意見を明瞭・簡潔に文章で表現できるかどうかをみる。

１．筆者の主張を適切に理解したうえで，これまでの学校教育での自分の経験と学びをわかりやすい文章で説明することができる。

２．これからの時代に求められる「メディア・リテラシー」について，課題文の主旨を踏まえ，子どもを視点としながら，自分の意見を文章で表現することができる。

メディアの多様化が急速に進み，複雑な情報が膨大に飛び交う現代において，情報を正確に読み解く力は不可欠である。2022年度より全面実施となった学習指導要領においては，「メディア・リテラシー教育」の重要性が挙げられた。学校現場での１人１台端末の整備により，子どもたちが今まで以上にインターネット上の情報に触れる機会が増えている。メディアの意味と特性を理解した上で，受け手として情報を読み解き，送り手として情報を表現・発信するとともに，メディアのあり方を考え，行動していくことができる能力の育成が必要とされている。

設問では，「メディア・リテラシー」の必要性と重要性を課題文から理解し，文意に沿った自分の経験とそこから得た学びをわかりやすい文章で説明する力や，子どもを視点としながら「メディア・リテラシー」について考察する力を評価の対象としている。

参考：高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）

総合型選抜　10 月入試【出題意図】

子どもの健康と生活をテーマに小学生が好んで行うスポーツや遊びについて、図から客観的事実を読み取る力、その根拠や背景を考察し、自分なりの考えを適切な文章表現によって述べる力を問う。

設問１では図が示す顕著な特徴を１つ挙げ、その理由について述べる。図のグラフには複数の特徴が見られるが、顕著な特徴としては最も高い割合の数値または最も割合の低い数値に該当するもの、男女間、学年間の差が大きいものを挙げることが望ましい。また顕著な特徴の理由を述べるにあたり、そこから考えられる可能性を多角的な視点から推論することが望まれる。

設問２では小学生が体を動かすことについて、図に示されているスポーツや遊びを例に自らの考えを述べる。具体的なスポーツや遊びについて、それらが小学生にもたらす影響や意義を考察し、論理的な思考を展開することが望ましい。

総合型選抜　12 月入試【出題意図】

食は人間が生きていく上で欠かすことのできない大切なものであり，健康な生活を送るためには健全な食生活は欠かせないものである。また，健全な食生活を日々実践し，おいしく楽しく食べることは，人に生きる喜びや楽しみを与え，健康で心豊かな暮らしの実現に大きく寄与するものである。そのため，子どもに対する食育については，家庭を中心としつつ学校や保育園等においても積極的に取り組んでいくことが重要な教育テーマである。そこで，本入試では食育を取り上げている。

本出題では，それぞれの設問に対し，下記の点について自分の意見を分かり易い文章で表現することができるかどうかをみる。

設問１：出題された本文を読み取ることができるか及び子どもの食育を推進し，良好な食生活を実現することが，子どもにとってどのような良い影響を与えるかについて論理的に説明することができるか。

設問２：食育の必要性や具体策について，自分の意見を論じることができるか。

学校推薦型選抜（公募入試／指定校入試）【解答および出題意図】

【問題１】父親の総数：2000 人× 16.3％＝ 326 人　＋　母親の総数：2000 人× 11.2％＝ 224 人　326+224=550 人　答え：550 人
※全体回答者数＝父親と母親の回答者の和であることの理解を確認する問題

【問題２】図２からは「子どもを預けられる人がいる」という子育てにかかる人手の支援と、「子育ての悩みを相談できる人がいる」という両親の心理的な支援が得られることで、二つの面での支援があると子育てを楽しいと感じられる割合が大きくなる、と考えられることに気づいて記述する。
保育者や保育施設ができる支援については、上の二つの面から、例えば保育時間の延長の課題、保護者支援の仕組みの課題などについて自分の考えを述べる。

編入学試験【出題意図】

子どもの「生きる力」を育む上で、自然体験を始め文化・芸術や科学に直接触れる体験的な活動が重要であると言われている。また、こうした様々な体験活動が、社会で求められるコミュニケーション能力や自立心、主体性、協調性、チャレンジ精神、責任感、創造力、変化に対応する力、多様な他者と協働する能力を育むために不可欠であると言われている。

今回の試験では、①自然体験と自己肯定感、道徳観、正義感との関係を調査した結果のグラフと、自然体験・生活体験と自立的行動習慣との関係を調査した結果のグラフの読み取りをすること、②学校教育における体験活動の意義について自身の認識を述べること、③それらを踏まえて保育・教育の現場において、どのような体験活動が必要であるかについての考えを論じてもらうこととした。この論述を通して、知識・技能ならびに思考力・判断力・表現力を評価する。

設問に対して論理的で説得力のある文章であれば、どのような観点から論じてもよい。上述した、特に②、③については、学校教育における体験活動についての批判的な見解も可能であり、論理的に説明されていれば、学校教育における体験活動の限界や弊害について論じるものでもかまわない。

参考までに回答する際の考え方の一例を示す。

①グラフについては、自然体験を多く行った子どもの方が、自己肯定感や道徳観・正義感が高く、自立的行動習慣が身に付いているという傾向が読み取れるとよい。
②学校教育における体験活動の意義については、豊かな人間性、自ら学び、考える力など生きる力の基盤となる重要な活動であることを、自身の考えを踏まえながら示せるとよい。実践的・体験的な学習で得られた知識・技能を自らの生活に活用することや、自己肯定感や自立的行動習慣を絡めて論じられるとよい。自然体験を始め、文化や科学に直接触れる体験的な活動が重要であり、社会で求められる能力をはぐくむこと等も含まれるとよい。
③保育・教育の現場において考えられる体験活動としては、食育などの具体的な場面を想定した内容を取り上げられるとよい。例えば、食に対する基本的な知識や習慣を身に付けることや、栄養バランスの取れた食事について考えられる。さらには、保育現場や教育の場で実施されることが多い、芋ほり、夏野菜の収穫、田植え、稲刈り、調理等について具体的体験活動を用いて論じられるとよい。